

令和4年度自己点検評価報告書

令和5年3月29日
自己点検評価委員会

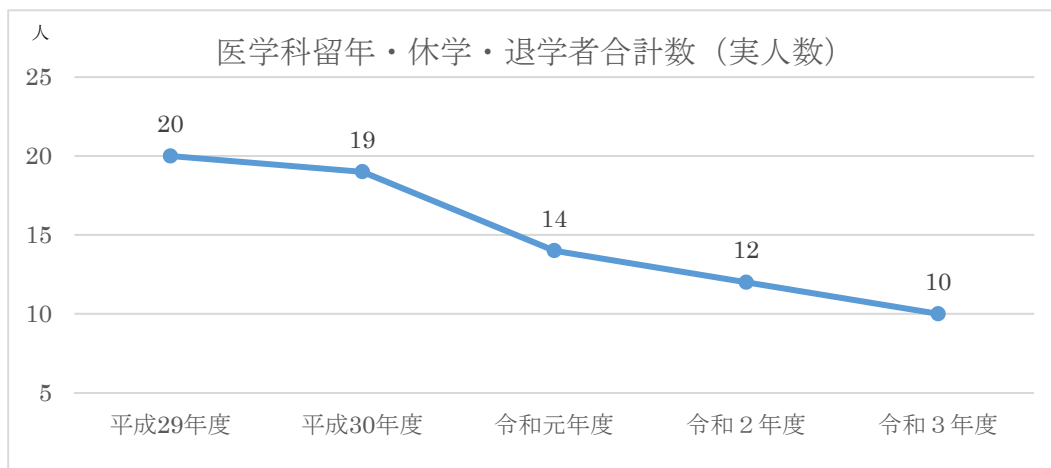
この報告書は、令和4年度における教育の質保証に係る自己点検評価等の結果についてとりまとめたものである。

1. 医学部の状況

1-1. 医学部医学科の状況

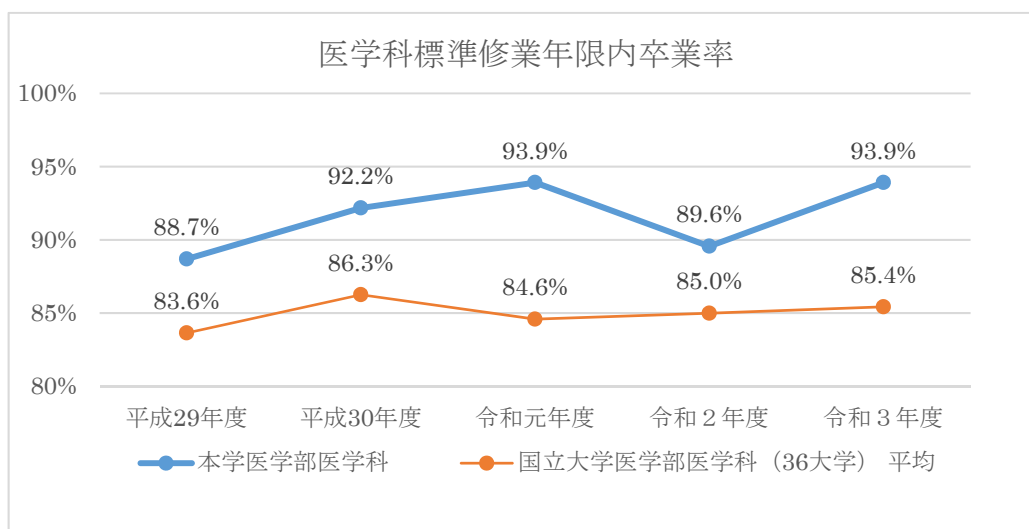
(1) 留年・休学・退学者数について

令和3年度の留年・休学・退学者の全学年での合計（実人数）は、10人であり、近年減少傾向となっている。



(2) 標準修業年限内卒業率について¹

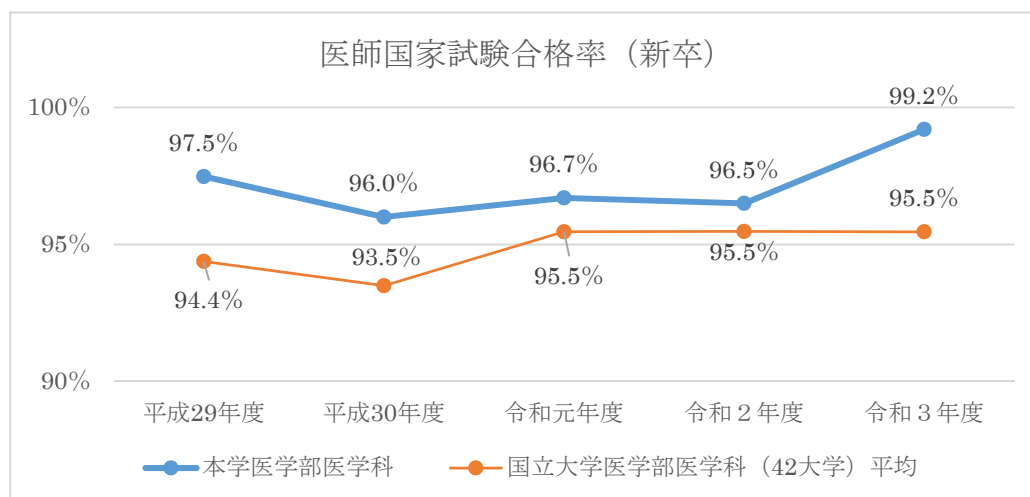
令和3年度卒業生の標準修業年限内卒業率は、93.9%（国立大学医学部医学科36大学中4位）となっており、高い水準を維持している。



¹ 大学改革支援・学位授与機構「大学基本情報」(<https://portal.niad.ac.jp/ptrt/table.html>) を元に本学で作成した。なお、国立大学医学部医学科は42大学あるが、欠損値のあった大学は除いている。

(3) 国家試験（医師）の状況について

医師国家試験の状況については、令和3年度の新卒では、合格率99.2%（国立大学医学部医学科42大学中2位）となっており、高い水準を維持している。



(4) コンピテンシー（学修到達目標）について

コンピテンシー（学修到達目標）について、例年どおり令和4年度の6年生について自己評価アンケートを実施した（有効回答率98.3%）。「専門知識と技能」においては、「基本的医療記録を作成できる」の項目で「よく身につけられた」及び「満足している」と回答した数が昨年度に引き続き増加している。これは、カルテ学生記載システムの活用が進んだものと思われる。「社会貢献力」においては、「地域医療の役割、必要性を説明できる」の項目で「よく身につけられた」及び「満足している」と回答した数は、平成29年度の調査開始以来、過去最高を記録した。これは、令和元年度から開始した総合診療・家庭医療実習の効果が継続しているものと思われる。一方、「国際社会に貢献するための語学力を身につけている」の項目で「よく身につけられた」及び「満足している」と回答した数は、低迷を続けている。自由記述においても「英語をもっと学んでおけばよかった」などの意見が多数見受けられた。ただし、英語力については、原則、奇数学年次の全学生に受験させている今年度のTOEIC試験において3年生、5年生の680点以上の学生の割合は、中期計画に掲げる目標の30%を超えており、改善の兆しが見える。また、今年度は、基礎配属²において海外実習できるよう検討するなど英語力の向上に向け取り組んでいる。

(5) 入学生・卒業生アンケートについて

令和4年度入学生について、例年どおり志望動機やWebオープンキャンパスの参加理由等について確認するアンケートを実施した。回答内容を分析することにより、今後の入学試験の改善及び入試広報の参考としている。

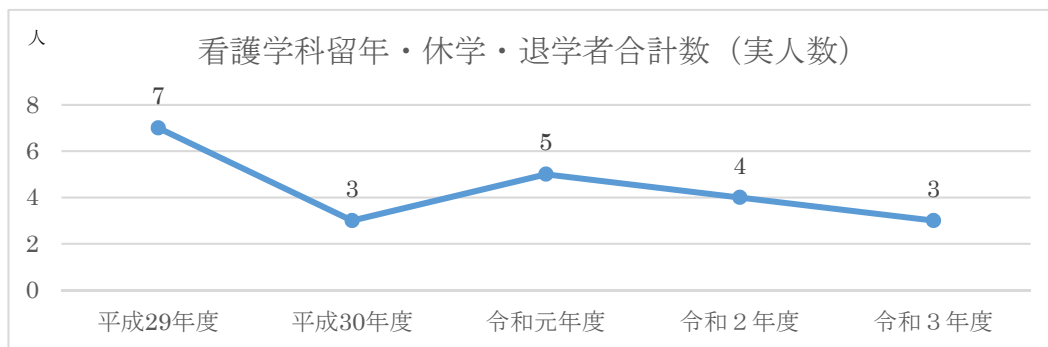
² 学生が主に基礎医学及び関連講座に配属し、研究等を行う授業科目

卒業生アンケートについては、今年度から同窓会の協力を得て実施したが、回答率が低い水準に留まり、今後の課題となっている。調査方法及び調査票の見直しを検討している。

1-2. 医学部看護学科の状況

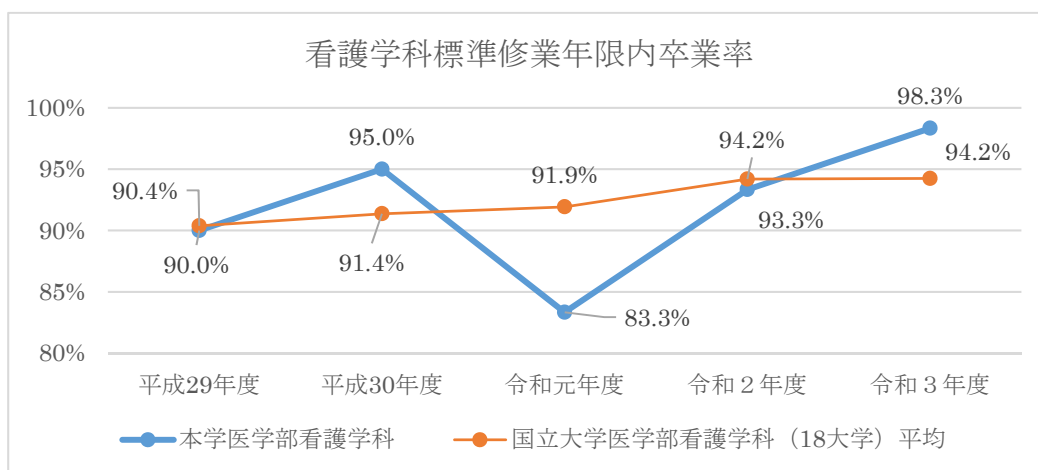
(1) 留年・休学・退学者数について

令和3年度の留年・休学・退学者の全学年での合計（実人数）は、3人であり、近年減少傾向となっている。



(2) 標準修業年限内卒業率について³

標準修業年限内卒業率については、近年他の国立大学と比較すると若干低迷していたが令和3年度卒業生については、98.3%（国立大学医学部看護学科18大学中3位）となり良好な状況であった。

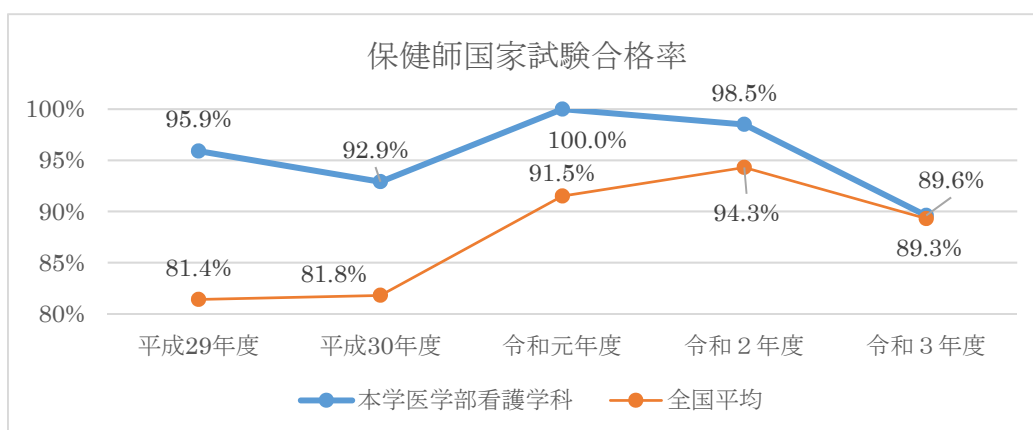
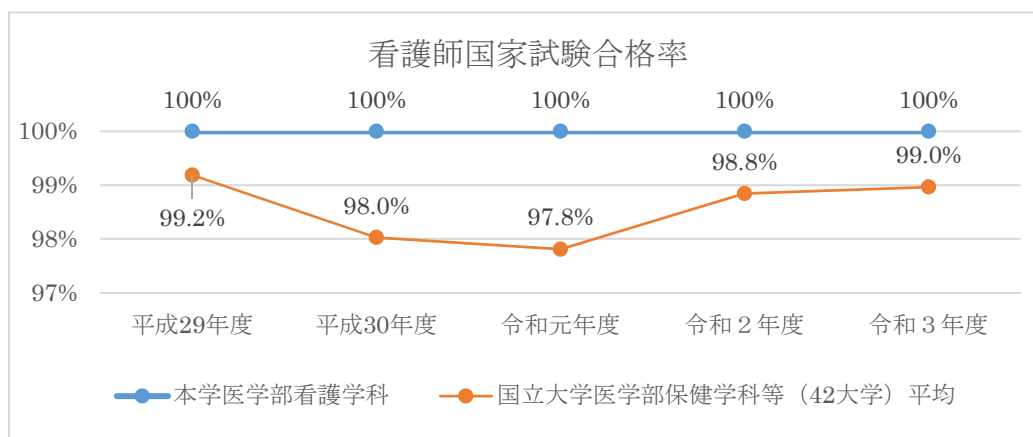


(3) 国家試験（看護師・保健師）の状況について

看護師国家試験の状況については、令和3年度も合格率100%を維持している。なお、5年連続合格率100%は、国立大学では本学を含めて3校のみである。一方、保健師国家試験の状況については、これまで全国平均に比べ

³ 大学改革支援・学位授与機構「大学基本情報」(<https://portal.niad.ac.jp/ptrt/table.html>) を元に本学で作成した。なお、看護系養成課程以外のコースも持つ保健学科等は除いている。

高い合格率を維持していたが令和3年度は、89.6%に留まり全国平均並みに留まった。



(4)入学生・卒業生アンケートについて

令和4年度入学生について、例年どおり志望動機やWebオープンキャンパスの参加理由等について確認するアンケートを実施した。回答内容を分析することにより、今後の入学試験の改善及び入試広報の参考としている。

平成29年度卒業生について、同窓会の協力を得てアンケートを実施した（有効回答率25%）。本学で受けた教育の満足度について設問したところ「満足」又は「まあ満足」と回答した者の割合は、100%であった。また、今年度より就労状況の調査を行ったが、ほとんどが、医療職として病院、保健所等の常勤職員として勤務しており、良好な結果であった。

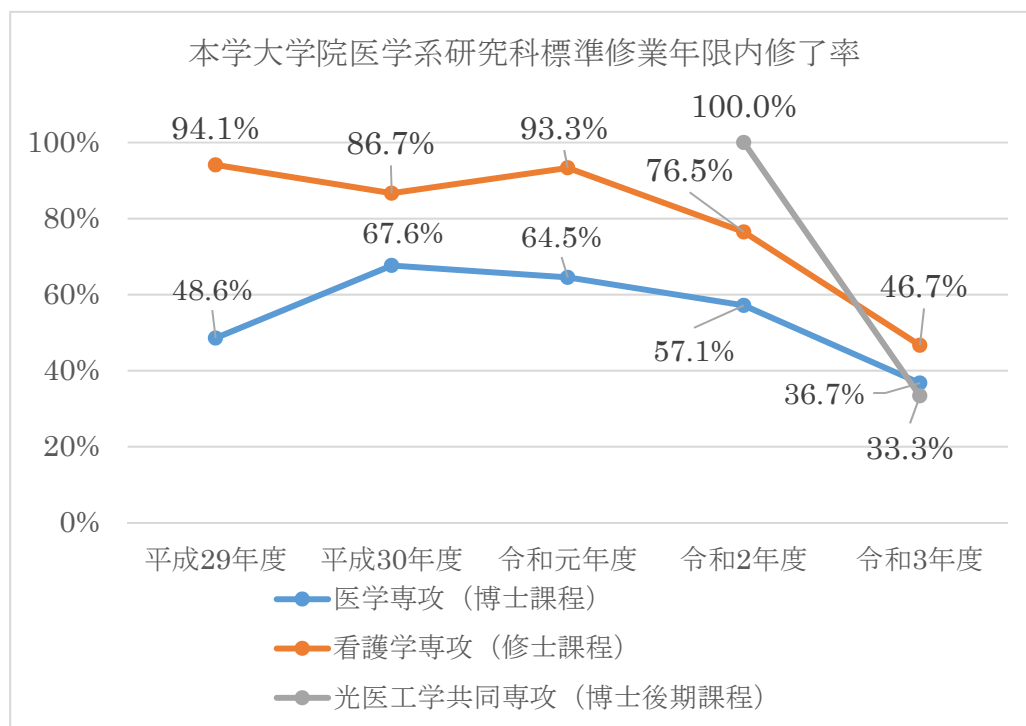
(5)教育課程に関する評価について

今年度より、看護学科教員（講師以上）に対し、教育課程に関する評価（アンケート調査）を実施し、アンケートでの問題点を抽出したところ、カリキュラムに過密な時期があったため、問題点を解消するためカリキュラム改正を行った。

2. 大学院医学系研究科の状況

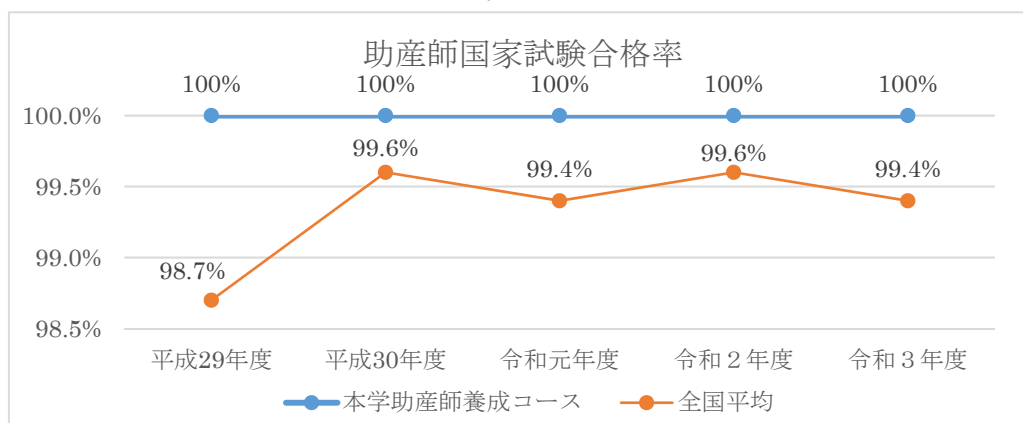
(1) 標準修業年限内修了率について⁴

大学院医学系研究科の標準修業年限内修了率は、以下のとおりであった。令和2年度及び令和3年度は、低下しているが、長期履修学生⁵が修了すれば、例年並みの水準となるものと思われる。



(2) 国家試験（助産師）の状況について

令和3年度の大学院医学系研究科看護学専攻（修士課程）助産師養成コース修了生の助産師国家試験の状況については、平成27年度の本コース開設以来、合格率100%を維持している。



⁴文部科学省の「成果を中心とする実績状況」の調査の定義に準じて算出している。

⁵職業を有している等の理由により、標準修業年限を越えて一定期間にわたり計画的に教育課程を履修し、修了することを希望し、その計画的履修を認められた学生

(3)大学機関別認証評価で指摘された改善を要する点について

令和3年度に受審した大学機関別認証評価において指摘された大学院医学系研究科医学専攻（博士課程）の入学定員の超過については、大学院医学専攻部会において、今後の対応を検討している。

(4)修了生アンケートについて

修了生アンケートについては、今年度から同窓会の協力を得て実施したが、回答率が低い水準に留まり、今後の課題となっている。メールでの依頼に切り替えるなど調査方法の変更を検討している。